

## ◆消費者へのアドバイス

### 子供に注意を促しましょう・食べさせ方を工夫しましょう

熱くてやけどの危険があることを伝え、容器に近づかない、容器を倒さないよう気をつける、お湯がこぼれないよう慎重に扱う等、子供に注意を促しましょう。

アンケートでは、カップ麺を食べる時に子供のやけど防止に気をつけていることとして、どんぶり、小皿、茶碗等別の容器に移し替えてから食べさせるといった工夫をしているという回答もありました。

※カップ麺等を食べる時に子供のやけど防止に気をつけていること（アンケート回答より）

- 容器も熱いので、手で持って食べず、テーブルに置いて手で支えるように伝える
- 熱いから気をつけるよう注意する、肘などが当たらないように置く場所などを指示する
- 全て親が行い、やけどしない程度に冷めたら子供に渡す

### 調理中は子供の手が届くところに置かず、目を離さないようにしましょう

カップ麺等にお湯を入れてから食べるまでは、テーブルの中央部、安定した高い台の上等、子供の手が届かない場所に置きましょう。テーブルクロスや機器の配線等を引っ張ることによる容器の転倒にも気をつけましょう。

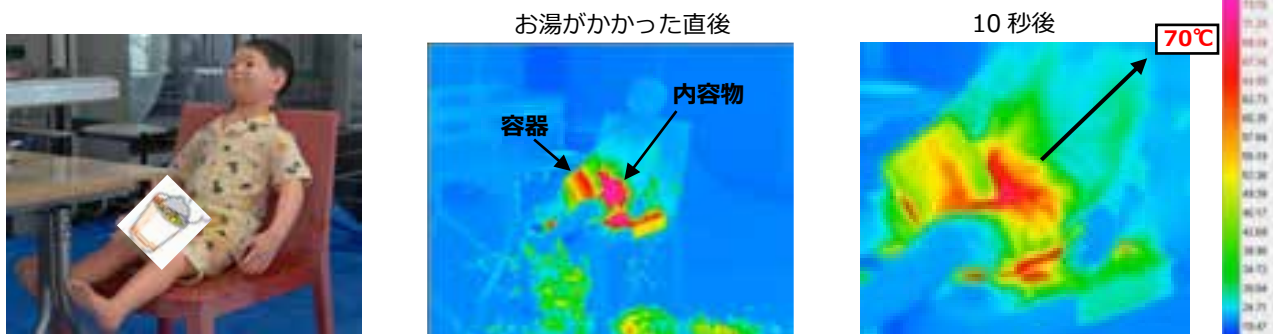
実際にやけどをした経験があると回答した方の子供の年齢は、1歳児が最も多く、他の年齢を大きく上回っていました。動ける範囲が広がり、いろいろなものに興味を持ち始める年齢です。小さな子供からは目を離さないよう、特に注意しましょう。

### やけどの初期対応について確認し、やけどした場合はすぐに対応できるようにしましょう

子供がやけどをした経験がある人の内、やけどをした時の初期対応実施の有無は、「有」が78.5%、「無」が21.5%となっています。やけどの初期対応を行わなかった理由は、「対処の方法がわからなかったため」が43.5%、次いで「初期対応をしなくても大丈夫だと思ったため」が32.6%、「焦ってしまっただけでできなかったため」が17.4%となっています。

やけどの初期対応について日頃から確認し、万が一やけどをした場合はすぐに対応できるようにしましょう。特に、被害を最小限に抑えるために、早急に流水でやけどした部分をしっかり冷やすことが重要です。やけどの範囲が広範囲にわたる等、症状が重い場合は、至急、医療機関を受診しましょう。

※容器が倒れて子供にカップ麺に入れたお湯がかかった場合の温度測定（被水再現試験結果より）温度(°C)  
10秒経過しても70°C程度となっている部分が存在しています。



## ◆情報提供

製造事業者団体、国等に対し、さらに安全な製品開発の検討、普及等の取組及び消費者に分かりやすい注意表示等の記載、事故防止に向けた注意喚起及び安全対策を推進するため、情報提供を行います。

報告書はホームページからダウンロードできます。

## ◆動画

動画「カップ麺等で子供がやけどをしないように気をつけましょう！」をご覧ください。



東京くらしWEB



<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/test/kappumen.html>